



TITLE:

松井先生をしのんで

AUTHOR(S):

杉本, 昭七

CITATION:

杉本, 昭七. 松井先生をしのんで. 経済論叢 1972, 110(5): 328-330

ISSUE DATE:

1972-11

URL:

<https://doi.org/10.14989/133493>

RIGHT:

經濟論叢

第110卷 第5号

哀 辞

故松井 清教授遺影および原稿

産業コンサルン.....	堀 江 英 一	1
創業利得と利益留保.....	高 寺 貞 男	27
不生産的階級と生存競争の組織化.....	池 上 惇	41
GMにおける予想制度と基準価格制度の形成.....	小 野 秀 生	57
個人的消費と労働力再生産の社会的性格.....	成 瀬 龍 夫	78

記 事

松井教授逝く

追悼講演(吉信 肅・森下二次也・山岡亮一)

追憶談(田畑茂二郎・杉本昭七・関下 稔・鈴木 明)

故松井 清教授略歴・著作目録

昭和47年11月

京都大學經濟學會

松井先生をしのんで

杉 本 昭 七

先生、これが人生というものなんですか。先生とお会いできなくなってからもう三週間あまりすぎましたが、私はいまだに心の平静さを取り戻すことができません。実の父親に別れた時よりももっと悲しいのです。

その日のことを私は忘れることができないでしょう。9月6日の朝10時すぎ、私の研究室に電話があり、すこし淋しいから話をしにきてくれないかといわれました。お宅にお邪魔して2時間あまり、先月行ってこられたばかりの東欧諸国でのこと、研究のこと、社会的な仕事のこと、また健康上春からはじめられたというボーリングのことなど、いつもと変りなく話しておられました。それからもう何か月も街に出かけたことがないから、久方振りに昼食をしに行こうといわれ、お伴しました。食事をはじめた時も食堂の

人に冗談をいっておられたのに。それから5分位たったのでしょうか。ものが喉につまった時のような、また咳のようなものを5・6回され、その間何もいわないでじっと私の方をみつめておられました。悪酔の時のような感じなので、背中を抱きかかえてさすりはじめた時、身体が一度小さく揺れました。あとで考えますと、この時だったのですね。救急車の中で心臓をマッサージしていた方が脈が急に衰えてきたといわれましたが、その時でも私は病院で手当をうければすぐに回復されるものと信じていました。だから、「先生の具合が急に悪くなったから」とお宅に電話して病室に走りこんだとき、医者から「おなくなりになりました」と聞かされたときも「そんなことがあるものか。今まで元気だったのに。何とかしてくれ」といったことでした。

私が先生の御指導を仰ごうと心に決めたのは、昭和27年大学に入学して間もなくのことでした。自衛隊の基地につく宇治分校のバラック建ての教室で、経済学部の先生方が一人ずつ自己紹介をかねて短い話をなさいました。その時の先生の人間味ある印象が強烈で、この時先生の学問と人間とからすべてを吸収したいと思ったのです。その後私は、ゼミナールから大学院を通じて先生の教えをうけ、その上同じ京大の中で先生のそばで研究を続けることができるという環境にめぐまれました。このことが私の人間形成に大きく役立っています。

先生はあたたかい方でした。この1950・60年代という世界の経済と政治、またイデオロギーが激動した時期、ともすれば自信を喪失し、自暴自棄になり、生き方でも研究上でもくじけそうになる時が何度かありましたが、その時々先生のきびしくしかもあたたかい激励が、私を支えてくれました。間違った統計を使った私の原稿を何もいわずに指さされた時のこと、私が経済的に困っている時それを知って「俺にロシア語を教えてくれ」とだけおっしゃった先生、また私の自尊心を傷つけないように「このズボンには自分には小さいから」と下さった先生、このようなことがあらためて思い出されます。

先生はまた、研究の厳しさを教えて下さいました。研究会の時間に遅れられたことがなく、原稿も締切日にはいつも提出しておられました。これらのこともさることながら、私が教えて頂いた最大のものは、経済学の研究は客観的な法則を解明することである、ということです。これは当然のこととも考えられますが、資本主義社会においては勿論のこと、場合によっては社会主義社会においても、ともすれば政治的に主流になっている階級や階層の考え方と論理が、それにあわない研究を抑圧したり、意識的に無視したりすることが発生しますが、先生はこのようなことにはいきどおりをもっていどまれました。経済学の研究が一時的な政治の利害関係や短期的な視野で行なわれることから、研究が腐敗すること、そして長期的な見通しを誤まることを、先生は常に懸念しておられたのです。

私をはじめてお会いした頃の先生の年齢に今私はさしかかっています。20年間にわたって教えられた道を私は今後とも追求して行きたいと考えています。先生、有難うございました。